

福島県の葛尾村（かつらおむら）へ 移動ATM車両を派遣しました！

セブン銀行

2015/11/11

セブン銀行では、内閣府原子力災害対策本部および復興庁福島復興局からの依頼に基づき、福島県葛尾村の住民の金融インフラ整備のため、2015年10月～2016年3月までの間、月に1回～2回、移動ATM車両を派遣することにしました。

葛尾村は、東京電力福島第一原子力発電所事故による避難指示区域に指定されていますが、避難指示解除に向けて、自宅の修繕・清掃、農地の管理、店舗・事務所の再開準備などを行うための準備宿泊が始まっています。

現在、約50名の村民が準備宿泊の登録をしているほか、約1,000名の人々が除染作業などを行っています。しかしながら、村内には来春まで金融窓口が無いため、移動ATM車両を派遣することにより、少しでも葛尾村の復興・再生のお役に立てればと思っております。10月15日から派遣を開始し、11月は10日と25日を予定しています。

セブン&アイHLDGS.

CSRアクション



セブン銀行
ATM業務管理部
次長 宇賀神一孝

10月15日 葛尾村での移動ATM車両派遣の様子



葛尾村役場の駐車場に移動ATMを設置



当日は、NHK（テレビ、ラジオ）と福島民報の取材が入りました。NHKは、その日のお昼と夕方にラジオ、テレビともに放送され「ラジオを聞いて、さっそく来ました」という村民の方もいました。



ご利用された方は、仮設住宅にお住まいの方、除染作業、農業支援、災害調査（道路・河川）をしている方などでした。仮設住宅にお住まいで、除染作業をしている方も何名かいらっしゃいました。

利用者の皆さまとお話をしましたが、

「町に行くのは遠いし、こうやって来てもらえるで大変助かる。

いつも使っているATMと同じだから、安心して使えた。

ちよくちよく来てもらえるで大変助かる」

「現在、葛尾村はとても不便な状況です。何も無い状態です。こうやって

少しずつでも便利さが戻ってくることは、私たちの希望につながります。

ありがとうございます。」というお話もありました。



現在、三春町の仮設住宅に住んでいて、除染作業を行っている葛尾村の方もいました。「来てくれてありがとう」と声をかけていただきました。

三春町の仮設住宅

震災前、葛尾村の村民は1,200名ほどいました。現在、村民の方は葛尾村から車で40分ほどの三春町の仮設住宅や郡山の借り上げ住宅に住んでいます。準備宿泊が始まり、少しずつですが葛尾村に戻ってきています。

関連情報

移動ATM車両について

2011年3月の大震災後、セブン銀行はATMの営業再開に相応の時間が必要な地域へ、ATMサービスを提供する、移動ATM車両を派遣し、被災地のお客さまの生活を支援しました。その際、お客さまから寄せられたご意見を反映し、移動ATM車両をさらに使いやすく、場所を選ばずサービス提供できるように2015年3月11日に新調しました。

バリアフリー対応

「ATMスライドシステム」を新規開発。ATMを車両の外に設置できます。車両に乗り込む必要がないため、ご高齢の方、体の不自由な方も安心してお使いいただくことが可能です。
※雨天時は、車両の中でのご利用となります。

電源がないところでもATMサービスを提供

ATM専用バッテリーと発電機を常備しており、電源がないところでもATMサービスの提供が可能です。

駐車場1台分程度のスペースでも設置可

自家用大型ミニバンとほぼ同サイズなので、設置場所を選びません。
※営業時は+1.5m程度のスペースが必要となります。

